

なぜ園庭に木を植えるの？ なぜ凸凹の園庭なの？

ほとんどの保育園・こども園・幼稚園では凹凸の無いグラウンド的な広だけの園庭です。都城市社会福祉協議会子育て応援課の3園では、5年ほど前から「子どもたちにとっての理想の園庭」についてたくさん学んできました。遠く東京から講師をお呼びして園庭を見ていただき、園庭作りで最先端の園の見学にも何度も行きました。

幼児期の子どもたちにとって、どんな園庭が理想なのか？望ましい園庭環境として6つの項目があります。

- ① 自然に触れ合うことができる環境・・・土場、砂場、水遊び場、芝生、雑草地、樹木やつる性植物 菜園・花壇、飼育動物がいる事
- ② 体を使って楽しむことができる環境・・・築山、斜面、遊具、開けたスペース
- ③ 自由に発想し、工夫ができる環境・・・道具や素材。
- ④ 休憩や穏やかな活動ができる環境・・・癒しの場、ハンモック、ピオトープ
- ⑤ 園庭全体の活動を支えるための環境・・・日よけ、園庭と園舎のつながり
- ⑥ 保護者や地域の方と交流ができる環境

こういったことを踏まえて、園庭作りを行ってきました。

四季を感じられる園庭にしたいために、木や草花を植えました。木や草花を植えることで、園庭の木に実った季節の果物など、見てさわり、匂い、味わいながら、四季を感じることで子ども達が五感を使って生活をする機会をたくさん設けていきたいと考えています。

凹凸のある園庭で子どもたちは、しっかり走り、毎日の遊びの中でバランス感覚などを身に付けたり、丈夫な体づくりをしています。凹凸のある園庭でも竹馬を楽しんだり、縄跳びをしたり、鬼ごっこをしたりして楽しんでいます。転びそうになって「おっと！」と反射的に自分で気を付けて動けるようになっています。

毎日、木に登ったり、冒険レンジャーにチャレンジして、自分の限界を超えようと頑張る姿もたくさんあります。時にはできなくて、涙することも・・・おおむたの子どもたちは大人が簡単に助けてくれることはないことも良く知っています。「自分の力で！」が合言葉ですから・・・できない子を応援したり、やり方を教え合ったり、出来たら一緒に喜んだり。手のまめを見せて「頑張った証拠」と言ってくる子どももいます。そんな時、本当に子どもを抱きしめたくくなります。

土、泥、水、木など自然物に触れあい、友達と工夫しながら遊べるような環境も大切にしています。泥んこ・・・みんな大好きです。自分を解放するかのようにとてもいい笑顔で遊んでいます。

そして、癒しの場。子どもだって時には、1人になりたい時だってあります。ゆっくり水の落ちる音を聞きながら、ボーっとする場所も作りました。メダカやカメを見ながら友達に話すように、話しかけている姿も見られます。ハンモックで揺られている子もいます。

広く整備されただけの園庭では、幼児にとって育つはずのいろいろな感覚を失っていくように感じます。また、年1回しかない運動会（わんぱくフェスティバル）と毎日の保育を比べた時に、どちらの園庭を取るのか？ これも、私たちの中で答えははっきりしています。

行事の見直しをした時に、「運動会」という名称を「わんぱくフェスティバル」と変えて、意味合いも、「練習無しで1日で完結する行事」「いつもの遊びから競技を考えていく」という行事を目指しています。これからもこどもファーストのこども園作りを目指していきたいと思っています。